

ボーリング柱状図

(仮称) 玉川学園高齢者在宅サービスセンタ 一建設に伴う地質調査業務委託 言周 查 名 ボーリングNo. 事業・工事名 シートNo ボーリング名 N o . 1 緯 北 調查位置 東京都町田市玉川学園3-3728 調査期間 平成10年 3月12日~10年 3月13日 町田市役所 発注機関 東 経 AP 孔口標高 Ŀ 盤 水平0° +99.572m 置 勾 下 0° 総掘進長 20.45m 180 南 標 標 深 柱 色相相 記 室 百 土 準 貫 試料採取 原位置試験 入試験 内 水 深 10cm ごとの 試験 試 名 深試採 位 験 進 質 対対 値 および結果 打擊回数 回 (m) 状 取 尺 高 厚 度 料 度 度 0 1020 度 月 X 密欄 測 貫 方 番 7 > 定 月 _(m)|1 0|2 0|3 0 調度度 (m) 号 法 义 分 \exists (m) (m)(m) (m)(m)埋 土 暗茶 0.40 1 1 2 1.15 30 1.45 2 2.15 2 2 30 1.95m付近までは粘性中位で、 の均質なロームである 3.15 以深は、粘性弱い 30 2 3.45 若干凝灰質となる 茶 指圧にて崩れる程度である 1 4.15 1 30 3 褐 黒色や白色のスコリアを混入する 4.45 少量の有機物を混入する 5.15 1.95~5.25m間は硬さが不規 30 暗 則で、N値の低い部分では1回/1 5.45 4 5 茶 5 cm程度の貫入量で薄層ながら互層 2 3 6.15 2 状を示す か 30 6.45 5.25m以深は硬質である W 7.15 3 8.9~9.25m間はスコリアの卓 <u>30</u> 10 越部である 7.45 全体に空隙が多い 硬 5 6 14 8 8.15 3 30 14 ţ, 8.45 2 2 9.15 30 9.45 89.77 9.40 非常含水量は中位~多い 10.15 暗 30 1 30 に軟 10.45 質 粘性強い 粘 非常に軟らかい 11.15 88.17 1.60 11.40 $\overline{30}$ 2 含水量・粘性共中位 全体に軟らかい 砂を不均質に含む 含水量中位 砂混り 11.45 淡黄 粘土 87.52 0.65 5 13 12.15 淡黄灰 30 13 粘土質 位 12.45 全体に粘土を混入する 1.05 13.10 の 86.47 13.15 含水量中位 緩 30 18 淡 少量の粘土を混入する 3 3 2 混 13.9~14.4m間は含水量の少ない凝灰質粘土を挟在する 30 黄 中 14.45 り 14.4~15.35m間は含水量多 灰 6 8 21 - 15 細 位 15.15 30 21 砂 の 粘性土の混入は少ない 2.60 15.70 15.45 83.87 5 9 18 - 16 16.15 4 暗 30 18 含水量中位 16.45 黄 極少量の粘土を混入する 10 22 - 17 中 17.15 5 中 30 22 17mの貫入試料では含水量やや多 位 17.45 砂 9 7 21 - 18 の 18.15 5 粘性土の混入状況により含水量に変 黄 30 21 化がみられる 18.45 灰 5 13 19.15 - 19 80.22 3.65 19.35 30 13 中 19.45 黄 粘土混 含水量少ない 位 9 20 20.15 5 5 19 3 13 粘土を薄層ながら互層状に挟在する り砂 灰 の 30 1.10 20.45 79.12 20.45 2 1

ボーリング柱状図

(仮称) 玉川学園高齢者在宅サービスセンタ 建設に伴う地質調査業務委託 言周 査 名 ボーリングNo. 事業,工事名 シートNo. ボーリング名 緯 N o . 2 調查位置 東京都町田市玉川学園3-3728 町田市役所 発 注 機 関 調查期間 平成10年 3月12日~10年 3月13日 東 経 180° 上 AP 孔口標高 地盤勾配 +99.907m 水平0° 鉛 90° 総掘進長 180 南 標 標 層 深 柱 _____ 色 相 相 記 原位置試験 試料採取 標準貫入試験 水 深 10cm ごとの 試 験 名 試 深試採 位 質 対対 験 進 値 Ν 打擊回数 および結果 (m) 度 状 料取 尺 崮 厚 — o — 度 0 1020 度 度 月 密稠 X 測 番 方 } } 定 月 (m) 1 0 2 0 3 0 义 度度 (m) 号 法 (m)(m) 分 調 \Box (m)(111) (m)埋 暗 に軟 ロームと黒ぼく土の混合土 らか極少量の礫や草根を混入する 1.15 土 35 20 15 全体に均質で、パサバサしている 2.4m付近より若干ローム質となる 1.70 1.50 黒 2.15 2 褐 12 8 0.80 30 97.41 2.45 3.15 30 3.45 2 2 4.15 3 30 4.45 2 5.15 30 ほぼ均質なロームである 5.45 浮石やスコリアを少量混入する 2 2 3 6.15 黄 3.8m以深は全体にパサパサして 30 位 の若干凝灰質である 7.15 2 $\overline{32}$ 6 黒色や白色のスコリアを多量に混入 12 暗 Δ 硬 3 2 8 2 8.15 極少量の腐植物が点在する 30 11.2~11.4m間は浮石を薄層 8.45 状に挟在する $\frac{3}{12}$ $\frac{2}{8}$ 9.15 30 9.45 1.0 10.15 3 3 3 30 10.45 $\begin{array}{c|cc}
\underline{1} & \underline{2} & \underline{5} \\
8 & 12 & 32
\end{array}$ 11.15 11.47 88.11 9.30 11.80 ~~ 軟ら 全体に不均質で、色調変化有り 若干の粘性有り かい 浮石、スコリア及び酸化物を多く混 入する 12.2m付近より混入物は少なく 凝灰質 灰 - 12 12.15 35 3 褐 0.80 87.31 12.50 **A** 13.15 /_ 30 13 18 6 14.15 30 18 14.45 粒子不均一 6 18 5 15 15.15 含水量少ない <u>30</u> 18 粘土分をやや多く混入する 15.45 粘 14.0m付近まで浮石やスコリア 5 6 16 - 16 16.15 5 等を多く混入する 30 16 土 16.45 褐 色調の変化有り 質 位 6 6 - 17 17.15 16.0m付近より粘土の混入が減 灰 30 17 細 の 少する 17.45 酸化物を所々に5mm前後の薄層状に 砂 4 4 12 18 18.15 挟在する 30 12 18.45 19.6~19.8m間は粘性土の卓 19 6 4 15 19.15 30 15 19.45 20.15 6 18 79.46 7.85 20.45 30 18 20.45 21

ボーリング柱状図

(仮称) 玉川学園高齢者在宅サービスセンタ 一建設に伴う地質調査業務委託 言周 查 名 ボーリングNo. 事業·工事名 シートNo. ボーリング名 N o . 3 緯 調査位置 東京都町田市玉川学園3-3728 北 発 注 機 関 町田市役所 調査期間 平成10年 3月16日~10年 3月19日 東 経 AP 孔口標高 盤 鉛 外型 上 水平0° +99.494m 総掘進長 度 180 81 南 標 標 屆 深 柱 色相相 記 上 試料採取 標準貫入試験 原位置試験 内 水 深 |10cm ごとの| 試 試 験 名 深試採 位 験 進 質 対対 値 および結果 打擊回数 (m)厚 状 尺 商 度 料 取 --- 0 ----度 0 1020 度 度 密稠 月 区 測 貫 番 方 7 定 月 (m) 1 0 2 0 3 0 义 分 調度度 (m) 号 法 \Box (m)(m)(m) (m) (m)ローム主体の埋土 埋 暜 全体に乱れている 土 褐 35 2 20 15 所々に黒ぼく土を混入する 97.49 2.00 2.15 非常 に軟 全体に均質で、軟弱である らか 黒 28 11 39 2 6 2.54 96.69 3.00 3-1 (T) $\begin{array}{c|c} 2 & 1 \\ \hline 16 & 7 \end{array}$ 4.35 33 4 5.00 3-2 T やや不均質なロームである 5.80 浮石やスコリアを少量混入する $\frac{4}{31}$ 4 い 2.8~3.0m間は暗褐色を呈する 4.0m付近より浮石や酸化物をや \propto や多く混入する 9.0m付近は混入物がやや少なく 15 27 $\frac{32}{4}$ 4 哉 8 位なる $\overline{33}$ 4 褐 | 12.2~12.4m間は浮石を層状 8.48 の に混入する 9.15 全体にやや硬質である $\overline{12}$ $\overline{12}$ $\overline{8}$ $\overline{32}$ 5 9.47 下部はスコリアや浮石をやや多く混 10 3 3 10.15 30 か 11.15 3 3 3 1 1 い 30 11.45 $\frac{5}{33}$ 12 2 12.48 13.05 86.19 10.50 13.30 30 13.40 13.3~13.5m間は粘土を挟在 凝 3-3 T する 軟 13.5m付近より不均質となり、 浮石を多量に混入する 灰 14.40 灰 $\begin{array}{c|c} 2 \\ \hline 45 \\ \hline 3 \\ \hline 32 \\ \end{array}$ 3 質 14.85 $\overline{25}$ $\overline{20}$ 全体に若干の粘性を有し、軟弱であ 褐 15 15.15 粘 い 15.0m付近より若干の砂を混入 土 2.70 16.00 83.49 9 30 3 3 3 16 16.15 砂 全体に微細砂をやや多く混入する 16.45 硬 浮石やスコリアを少量混入する 質 10 - 17 17.15 3 い 17.0m付近より所々酸化されて 粘 灰 30 10 17.45 土 1.80 17.80 所々酸化しており、色調変化有り 15 18 褐 18.15 4 7 粘土質 位 砂の粒子は細かく、全体及び層状に 30 15 細砂 18.45 の 粘土を混入する 1.00 18.80 全体及び所々に5m程度の薄層で細砂を挟在する 所々酸化されており、色調変化がみ 2 3 8 褐 緩 19.15 - 19 砂混り 30 シルト 灰 11 | 内へ酸化されており、色調変化がみられる 教子やや粗く、ほぼ均一 含水量中位 全体にシルトや雲母片を少量混入す 19.45 0.90 19.70 褐 緩 20.15 3. 20 3 3 混り細 灰 30 20.45 79.040.75 20.45 2 1